

# 宇宙生命哲学

## ことばはじめ

北里環境科学センター  
名誉顧問/宇宙生命学者

伊藤 俊洋

16

### SDGsと「素敵な地球人になる練習」

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2015年9月25日に国連サミットで採択された国際社会全体の開発目標である。地球上の誰一人取り残さない持続可能な世界を実現するために、2030年までに到達すべき17の大きな目標と具体的な169の実践項目で構成されている。

一方、「素敵な地球人になる練習」は、筆者が2015年10月30日に、相模原市の某小学校4年生の「地球環境の総合学習」で取り上げた課題である。この二つが目指した到達目標には、共通点が極めて多い。以下に両者の内容を紹介する。

SDGsの特徴は、開発途上国から先進国まで全ての国が行動し、誰一人取り残さずに、全ての利害関係者（政府、企業、NGO、個人など）が役割を果たし、統合的に取り組んで、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現しようとするもので、定期的にモニタリング指標の達成度を確認することが求められている。17の到達目標は、基本的な人権と生活の質の保証、地球環境・生態系の保全とそとのための活動、社会構造・経済等の統合的育成と多岐にわたっている。多様性とは、生物多様性のみならず、人間社会の多様性、すなわち

年齢、性別、国籍、宗教、障害の有無、ライフスタイル、仕事歴など全てを含む。あらゆる多様性を包み込み、尊重し、認め合い、共に活躍・成長する社会の構築が、SDGsの達成につながる。



SDGs (Sustainable Development Goals) 17のロゴ (国際広報センター作成)

一方、「素敵な地球人になる練習」の授業内容は次の通りである。地球上のすべての生物は、基本的に環境から生まれてきて、環境に還ってゆく。地球的視野で考えると、すべての生物は、地球上でリサイクルしており、運命共同体である。人間は、生まれてから死ぬまで、素敵な地球人になる練習をしていると考えよう。素敵な地球人は、国家・人種・民族・宗教・性別・貧富の差・文化・文明の壁を越えて仲良くし、民族の多様性を尊重し、基本的人権を尊重し、生物多様性を尊重する。戦争をしない人間、生物を大切にしている人間、むやみに水や空気を汚さない人間、生活を楽しむ人間、そして、自分の心の宇宙を、広く、深く、豊かなものにする努力をする人間が、標準的な「素敵な地球人」である。児童たちは「素敵な地球人になる」という目標を手に入れて、死に対する不安から解放されたという。

人類は今、SDGsという共通の目標に向かって、その歩みを加速しなければならない。